＜2010年以降の将来の方向性＞

成田・羽田両空港を一体的に活用し、増大する首都圏航空需要に24時間通して質・量ともに最大限対応

- 首都圏の空港容量については、2010年以降、約17万回（成田:約2万回、羽田:昼間約11万回、深夜早朝約4万回）の段階的な増枠を予定（これにより、現在でも国内・国際合わせて発着回数、旅客数ともにアジア最大である首都圏空港の機能を更に強化。）

現在のアジアの主要都市の空港の発着回数の実績

東京（成田・羽田）	上海（浦東・虹橋）	北京	香港	ソウル（仁川・金浦）
52．6万回 (2010年以降、さらに17万回増加)	41．0万回	37．7万回	29．0万回	27．7万回

- さらに、当該増枠によっても、概ね10年後には首都圏の空港容量が再び満杯になると予想されるため、管制、機材、環境、施設等あらゆる角度から可能な限りの空港容量拡大施策を検討。

- 羽田は、国内線需要に適切に対応しつつ、国内・国際双方の需要の伸びを勘案し、昼間（6時～23時）は、羽田のアクセス利便性を活かせる路線を中心として国際線の増加を推進。成田からの国際線就航のない深夜早朝は、欧米をはじめとした世界の主要都市への就航により、首都圏全体の国際航空機能を24時間化。

- 成田は、世界各地との豊富なネットワークを有する我が国最大の国際空港としての強みを一層強化。さらに、成田新高速鉄道等の空港アクセス改善の進展を踏まえ、国内線も充実。

- なお、個々の具体的施策は、地元自治体や航空企業等の関係者の意見を十分に踏まえて推進。また、空港容量の拡大に伴う騒音問題等の社会的コスト負担についても留意。